

## 浜松観光ボランティアガイドの会

### 新入会員現地研修会 ～家康の散歩道(後半)～

4月19日(月)、23期生新入会員8名と22期生会員5名、研修部員等10名の計23名で家康の散歩道現地研修会(後半)が実施されました。9時に浜松城公園「せせらぎの池」を順次4グループに分かれて出発、鎧掛の松から馬冷しを通り、曹洞宗広沢山普濟寺へと向かいました。



普濟寺総門前にて

普濟寺では、金指近藤家の陣屋門を昭和初期移築した総門、山門(赤門)、雲夢橋(うんぼうきょう)、北山稲荷(豊川稲荷の本家)等を見学。

次に曹洞宗高松山西来院(普濟13派の1寺院)では、築山御前廟所(月窟廟)を訪れ、長男信康と共に命を絶たなければならなかった家康の無念な思いを忍びました。松平源三郎康俊(家康異父弟)、杉浦真崎(諏訪神社杉浦国頭の妻で歌人。賀茂真淵幼少時の師匠)等に次、林五官の墓参をしました。「咲きながらのびすすむなり藤の花」が刻まれた松島十湖の句碑を見事に咲いた長藤の下に見つけて次の曹洞宗宝蔵山宗源院に向かいました。

宗源院(普濟寺13派で一番格の高い寺)では、三方ヶ原合戦当時家康の身代わり等となって戦死し、家康が供養させたという成瀬藤蔵正義、外山小作、遠藤右近等の墓碑を参拝しました。成瀬の末裔は、犬山城主として幕末まで続きました。成瀬が戦死した寺の南の谷は、成瀬谷と呼ばれています。

浜松市立高校同窓会館前の浜松最初の女流作家「鷹野つぎ」の歌碑前では、研修部員から女史の作品「四季と子供」中の母の回想録に「浜松城御殿の取り壊しの時、見事な金箔の天井張りを見た」というくだりがあるとの説明があり「もし廃城令がなかったら・・・」との声も聞かれました。

夏目次郎左衛門吉信の碑でUターンし、奥山線線路址(遊歩道)を歩いて12時ごろに戻りました。参加者から「台地のはずれの地に三方ヶ原合戦に関わる仏閣やそこに葬られている方々がいるということを知って見聞し良かった」という感想が聞かれました。 広報部 植田善和(北ブロック)

### 新入会員現地研修会 ～浜松駅周辺～

4月26日(月)、晴天の中、23期生新入会員8名と研修部員等12名の計20名で浜松駅南口を9時30分に出発。最初に浜松観光インフォメーションセンター所長からご挨拶がありました。その後、駅構内の多機能トイレ、銀行ATM、ロッカールーム等を見た後、駅南口の食事処、館山寺温泉シャトルバス停前を通過して場外馬券売り場、ザシティ浜松へと移動。そして遠鉄百貨店新館8階展望エリアで小休止を取りながら、お勧めの市街地ビューポイントを楽しみましたが残念ながら富士山は見えませんでした。そして地下に降りて「外貨両替機」を確認して「ソラモ広場」に出た後、浜松復興の市民の木「プラタナス」の前で、残る2本は浜松城公園と緑化推進センターにて元気に育っているとの説明を聞きました。駅北口の「キララ広場」を通過してバスターミナルの「ルイ・フランセン」作の壁画を見て、アクトシティの「ショパンの丘」で集合写真。楽器博物館からバスターミナル北東角にある「ひまわり」の「太陽光採光伝導システム」の原理の説明を聞いて参加者の皆さんは改めて感心されていました。最後に国際電話可能な「公衆電話」の前で解散。本日の現地研修コースは予定の約2時間で無事終了しました。参加者からは浜松に来られたお客様に「おもてなしの心」でご案内したいとの声が聞かれました。



「ショパンの丘」にて

「ショパンの丘」で集合写真。楽器博物館からバスターミナル北東角にある「ひまわり」の「太陽光採光伝導システム」の原理の説明を聞いて参加者の皆さんは改めて感心されていました。最後に国際電話可能な「公衆電話」の前で解散。本日の現地研修コースは予定の約2時間で無事終了しました。参加者からは浜松に来られたお客様に「おもてなしの心」でご案内したいとの声が聞かれました。

広報部 石津好章(北ブロック)

## 新入会員現地研修会 ～ 浜松城周辺 ～

5月10日(月)、朝から晴天に恵まれて新緑が香る中、23期生新入会員8名と22期生会員5名、研修部員等13名の計26名で現地研修会が実施されました。予定時間より少し早い9時35分にコロナ禍の対策の中、第1グループから第4グループに別れて順次出発。天守閣の石垣、天守曲輪西側の埋門(うづみもん)、そして邪(ひずみ)、鎬隅(しのぎすみ)、屏風折(びょうぶおれ)、横矢掛(よこやがかり)、腰巻石垣等の浜松城の石垣の特徴を説明して頂きました。さらに天守門の鏡石、入隅、出隅を見て富士見櫓へ移動、この日は丁度運良く富士山を望む事ができました。野面積の前では、杉本研修副部長が持参したチャート(珪岩)の現物を手のひらに乗せて説明して頂いたのが印象的でした。続いて本丸南口にあった鉄門跡では巻尺を使って大きさを測ることで当時の壮大な門の面影を想像する事ができました。その後、二の丸跡を右手に見て、美術館正門前の敷石に描かれた麻生秀穂の「レリーフ作品」の説明を聞きながら作左曲輪へ移動。本多作左衛門重次が「長篠の戦い」の陣中から浜松にいる妻に宛てたとされる日本一短い手紙の説明を受けました。次に、緑色→黄色→桃色に花の色が変化して散る「御衣黄桜」、東京の「湯島聖堂」から移植された楷書の語源となった通称「学問の木」の「楷(かい)の木」を見て、



鉄門の実際の大きさを巻尺で測る

浜松城の絶景スポットといわれている場所で一旦休憩。その後、中央芝生広場で災害避難場所の設備の説明を聞いてから旧奥山線路跡の小道に沿って東照宮のある古城跡に向かいました。元目口から下垂口、プラタモリで放映されたお堀跡、瓦門跡を通り、鎧掛松のある広場に戻ってきてグループ毎に自由解散で終了しました。参加者からは「浜松城の大きさ、城下との繋がりを自分の足を使って感じ取ることができました。また、お城周りを散策することによって新たな発見をすることができました」との感想が聞かれました。

広報部 石津好章(北ブロック)

### 会員の交流広場

### 旧中山道トレッキングの旅

コロナ禍ではありましたが、4月中旬に好天に誘われて旧中山道の三留野、妻籠、馬籠、落合、中津川の各宿場を巡る全行程24kmを山仲間と共にトレッキングしました。今回は三留野宿の天白公園からスタートして中津川宿までの変化に富む、印象深い行程を楽しめました。

標高の最高点は馬籠峠の790mでしたが、各宿場をつなぐ道はアップダウンが激しく、累積標高差は1520mもあり、登山を趣味とする私でさえ、結構足に疲れました。馬籠宿から落合宿にかけての全長約900mにも及ぶ石畳の街道や妻籠宿、馬



落合宿手前の石畳

籠宿の本陣、脇本陣を訪ねては昔の旅人に想いをはせながら散策してみて、あらためて昔の人は健脚だったんだなあ実感しました。

道中、目を楽しませてくれたのは秀麗な山容の数々。特に妻籠城址からは冠雪の木曾駒ヶ岳、空木岳などの中央アルプスの主稜線、そして馬籠宿の見晴台からの恵那山などことの外、美しい眺望を得られました。

中山道や「是より木曾路」などの道標、芭蕉や子規の句碑、十返舎一九の狂歌碑、島崎正樹(藤村の父)の歌碑などの多数の碑や源平合戦期の木曾義仲と巴御前ゆかりのかぶと観音、袖振りの松、腰掛岩や戦国時代の妻籠城址、馬籠城址などの山城遺跡、口留番所跡、一石枡の白木改番所跡(いちこくどちのしらきあらためばんしょあと)などの史跡を興味深く訪ねることができたのも印象深かったです。街道沿いの樹々や花々はちょうど満開で、まさに春爛漫。特に同じ幹から紅白入り混じった花桃の群生は桃源郷を思わせ、街道筋には史跡も豊富で実に魅力満点のトレッキングでした。

西ブロック 谷晃

## 二年ぶりの浜松まつり「まつり会館内の案内」で協力

二年ぶりに浜松まつりが開催されました。コロナ感染防止で、屋台・練りは中止、凧揚げのみの開催となり、関係者以外入場禁止・飲食禁止の厳戒態勢が取られ、参加町も初日は174町の内、89町と縮小規模とはなりましたが、5月3日(月)~5日(水)の3日間勇壮な糸さばきが展開されました。

例年は「写真撮影と凧揚げ体験」の協力を当会が行いましたが、今年はまつり会館にて館内案内のみの協力となりました。1日(土)、2日(日)は各2名、3日(月)~5日(水)は各4名が案内役として参加しました。まつり会館の駐車場が閉鎖されていた影響なのか、来場者は少なく残念でした。快晴の3日、公園広場では「浜松」と書かれた3帖の大凧と館内常設展示の「家康くん」の2帖半凧が「凧の会」の方々によって高々と揚げられ、一般来場の方々が凧揚げ体験を楽しんでいました。

「会場には入れなくてもせめて近くで」と砂丘を訪れる人も多くみえていて、防潮堤から凧揚げ鑑賞ができると聞き、3日午後、砂丘入口から防潮堤に登り、会場近くまで行ってみました。13時、3発の花火を合図に一斉に町内凧が揚げられました。ひととき高くゆったりとなびいている凧がありましたが、医療従事者への感謝を込めた水色一



会場は入場禁止のため防潮堤から凧揚げを望む

色の上西町の凧だったと後で知りました。昨年惜しくも揚げることでできなかった初子凧、還暦祝いの凧等も期間中揚げられたとのことでした。

浜松まつりの凧揚げの歴史は諸説あるようですが、江戸時代から東海地方各地で、初の男子が誕生すると空き地に行き凧を揚げる風習があったようです。渥美半島の田原にもまつり会館があり東海地方の凧の歴史を深く知ることができます。こちらの会館を建設する時は浜松まつり会館に視察にいらしたそうで、浜松の天神町凧、通称「ヨコテン」が展示されています。浜松では糸切り合戦はしても勝敗は争いませんが、田原では、けんか凧と言って毎年5月にコンテストが行われていて、スポーツカイトとも言われているそうです。凧糸は同じ麻糸とのことですが、浜松が麻だけなのに対して、田原はナンキンといって長崎より伝来の電球ガラスを細かく砕いたものをワラビ糊で塗りつける方法を採用しているとのことでした。

形は違っても、子供の成長を祈る気持ちはどこも同じ。天空く舞い上がる凧を眺め、伝統の継承を強く思いました。

広報部 金原里枝 (南ブロック)



家康くんの2帖半凧で凧揚げを体験

## 浜松城公園 緑の中で いろいろな植物 観察しよう

事業部主催による小学生対象の夏休み恒例企画「自由研究やらまいか」が今年度も開催されます。三方原台地の最南端に位置する浜松城、つい最近までは動物園、古くは武家屋敷のあった浜松城公園は植物の宝庫です。公園内の緑の中でいろいろな植物を観察します。



開催日時 7月25日(日) 9:00~12:00

集合場所 浜松城公園駐車場入口付近

講師 高橋謙治氏 (西ブロック)

(日本自然保護協会 自然観察指導員)

対象 小学3年生~6年生

定員 20名 (先着順)

申込期間 7月15日(木)~7月21日(水)

申込方法 電話、FAX、E-mail

問合先 戸塚事業部長

Tel 090-4196-8166

詳細は当会のホームページを参照。

【注意】コロナウイルス感染拡大防止のため、開催が中止になる場合があります。

# 新入会員の入会動機

仕事を卒業して最近ふと思ったことは、浜松に生まれて生活してきたのに地域の自然、歴史、文化等について知らないことだらけだなあと気づいたことです。そんな折、浜松観光ボランティアガイド養成講座があると知りました。浜松市、遠州地方、静岡県内の自然、歴史、文化等のことについて広く知ることにきっかけとなればと思い応募しました。

6回にわたる養成講座では先輩の皆様方からご指導をいただき知的好奇心が満たされる思いがしました。しかし、私自身はまったくの未熟者です。ご指導の程、よろしくお願ひいたします。

堀内 映 (中ブロック)

海外単身赴任生活に区切りをつけ少し早いけど余力のある60歳でリタイヤし、2019年より念願の趣味悠々と自然農法による家庭菜園をして、妻と2人の楽しい生活を過ごしています。しかし、これまでは会社を通していろんな人達に会い充実した仕事や私生活を楽しんでいたことを思うと、何か物足りなさを感じ、もう少し社会とのつながりを持ってないかと思うようになりました。以前より大河ドラマファンで放映に合わせお城巡りや歴史探訪をしており、女城主直虎の時は浜松近郊をいろいろ探索していたので、この趣味を活かして浜松城の観光ガイドができないかと考えていました。そんな折、この浜松観光ボランティアガイドの会のことを広報はままつで知りました。そこで、思い切ってボランティアガイド養成講座を受講し入会することにしました。

想像以上にガイド活動は多岐にわたっていたのですが、勉強を続けながら精一杯チャレンジをしたいと思っています。

伊藤英典 (東ブロック)

## ★お知らせ★

当会では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月11日(火)より浜松駅構内の浜松市観光インフォメーションセンターで、12日(水)より浜松城でのガイド活動を中止しています。

5月26日(水)に浜松市より「感染拡大警戒宣言」が発令されました。従って当分の間、犀ヶ崖資料館の管理以外の活動を中止します。何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 5月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

### 《浜松城》

6日 木	浜松市立下阿多古小学校	25名
12日 水	津市立九居西中学校	35名
	磐田市立竜洋北小学校	42名
14日 金	浜名特別支援学校高等部	14名
	富士市立田子浦中学校	75名
20日 木	静岡県立袋井特別支援学校	14名
	富士市立岩松中学校	63名

21日 金	富士市立富士中学校	140名
25日 火	ユーラシア旅行社	8名
31日 月	浜松磐田信用金庫	53名
	磐田市教育支援センター	14名

### 《犀ヶ崖資料館》

※ 団体入場者なし

### 《浜松まつり会館》

※ 団体入場者なし

## はままつ案内人会報 227号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会  
 〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)  
 TEL & FAX 053-456-1303  
 メールアドレス mail@hama-svg.jp  
 ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索

